

地区だより

暑い々と思っているうちに、いつしかすごしやすい季節になりました。

今朝、通勤途中にある小山から蝉の鳴き声が聞こえたかと思うと、目の前を一匹の赤とんぼがスーと飛び去っていきました。季節が秋に変わり行くのと時を同じくして、社会全体の諸情勢もHotな時を過ぎ、肌寒さを感じさせるような出来事ばかりが耳に入ってきます。

これ以上、凍てつく冬が到来しないことを願うばかりです。兎も角も、我々にとっては”天高く馬肥ゆる”の秋です。競馬で大損して馬を肥らせろという意味ではありません。この一年をより良く締め括るために、知識、体力を養う絶好の季節ということでしょう。

技師会、技術学会、他講習会等、秋季イベントが多く開催されます。是非、会員諸兄も多数参加してください。

身体中に”知識のふき出物”ができるほど勉学に勤しんでみてはいかがでしょうか。

会長 千安 式部



地区委員会報告

東芝委託研究について

「X線診断装置の安全管理に関する調査研究」が本年度の研究テーマです

研究統括者 千安式部 氏（足柄上病院）

研究班員 学術委員14名 地区推薦班員12名（2地区未定）

当地区より和田明彦氏（山近病院）が点検表作成班班員として活躍しております

会員各位も調査依頼が有りましたら御協力お願い致します

関東地区研修会開催について

日時 平成4年11月7・8日

会場 県立近代文学館（横浜市）

7日 関東会長会議

8日 地区研修会 9:00～16:00

講演

放射線技師が変化に対応するために

日本放射線技師会副会長 国井立志氏

CRに関する話し（演題未定）

県立こども医療センター技師長 松田秀治氏

「演題未定」

聖マリアンナ医科大学教授 藤井正道氏

参加資格は放射線技師

日本放射線技師会より30万円の助成金と各県技師会分担金で運営されます

当日は多くの会員が参加されますようお願い致します

マンモグラフィー技術研修会開催について

今年度5県で研修会が開催されます

本県は東海大学にて開催予定です

平成5年1月24日（日）13:00～17:00 参加人員100人程度

神奈川学術振興セミナー開催について

主旨 メーカーとユーザーの話しあえる会としたい

日時 平成5年1月30～31日

場所 湯河原共済会館

演題 「空の安全」（QA QCに関する話し）

講師 日本航空パイロット（講師未定）

JMCP93について

日時 平成5年4月1日(木)～5日(月)

会場 パシヒコ横浜

開催役員として本県より

副実行委員 蒔利彦氏

顧問 栗田達夫氏

常任実行委員 (会場)

長谷川武氏 中村豊氏

実行委員会主催としてビデオガイダンスを2題企画しました

マンモの技術討論

顎関節領域の臨床技術討論

その他

横浜西部技師会発足 会長 古河進氏

相模原技師会発足 会長 高原斉氏

ポスター作成委員会委員に地区委員より藤田昭氏(東海大学)選出

神奈川人材確保委員会

技師会より山本洋一氏(県立厚木病院)選出

日本放射線技師会主催野球大会

本県2回戦で敗退 優勝 宮城県(愛媛県とジャンケンで)

日本放射線技師会45周年記念式典

平成4年11月30日行う当日厚生大臣表彰30名程ある

日本放射線技師会は技師学校新設を4年制大学のみを承認する事を決定

全国で数件の開校計画があり国立大学も検討段階とのこと

グリーンウエーブ相模原92が10月3日～11月23日まで開催

相模原技師会は10月11日「健康と医療における放射線」パネル展示を行う

佐久間正鈴鹿医療科学技術大学理事退任、新理事に藤間英雄氏が就任

日本放射線技師会は平成7年レントゲン誕生100年式典を行う

日本放射線技師会は技師法改正に対し国会に要望書を再度提出した

日本放射線技師会にご寄付される方は出資金証書によるご寄付もお願いします

(地区委員 千葉)



委託研究班編成

委託研究 “X線診断装置の安全管理に関する調査研究”

・研究責任者： 藤 利彦 (神奈川県放射線技術師会会長)

・研究統括者： 千安式部 (学術担当理事、学術委員長)

・研究班員 (学術委員)：

- 上前 忠幸 (理事)
- 安田 富 潤治 (横浜市立市民病院)
- 志田 真実子 (県立呼吸器循環器病センター)
- 有村 芳 和 (県立総合医療センター)
- 岩村 千代子 (県立南共済病院)
- 本村 和 和 (日本脳神経病センター)
- 伊田 秀 松 (県立こども医療センター)
- 日置 和男 (県立須賀野総合病院)
- 大田 宗雄 (国際労災総合病院)
- 安部 真 武 (横浜労災)
- 長谷川 弘 (副会長)
- 村山 弘 (副会長)

地区 (地区推薦班員)： 氏名 施設名

1. 川 崎 村越尾 和仁 川崎市立川崎病院
2. 横 浜 中部 大野 智之 横浜市立港南病院
3. 横 浜 東部 伊藤 今一 横濱市立磯子総合病院
4. 横 浜 西部 和田 直一 県衛生看護付属病院
5. 横 浜 南部 斉藤 仁志 浦川病院
6. 鎌 倉 叶 久輝 酒井病院
7. 湘 南 田 清治 永瀬医院
8. 平 塚 和 田 明彦 山近病院
9. 西 湘 野 山 成之 伊勢原協同病院
10. 伊勢原・秦野 大和田 同病院
11. 県央 野 山 成之 伊勢原協同病院
12. 相模原 大和田 同病院
13. 相模原 大和田 同病院
14. 相模原 大和田 同病院

☆アンケート調査班

- 班長 志田 潤治 (横浜市立市民病院)
- 班員 安田 富 潤治 (横浜市立市民病院)
- 日置 和男 (県立こども医療センター)
- 伊藤 今一 (県立総合医療センター)
- 登野 宗雄 (国際労災総合病院)
- 大田 智之 (横浜市立港南病院)
- 和田 直一 (県衛生看護付属病院)
- 叶山 久輝 (酒井病院)
- 本 成 (東芝林間病院)

☆資料調査班

- 班長 有村 真実子 (県立呼吸器循環器病センター)
- 班員 千安 式部 (県立足柄上病院)
- 岩村 芳 和 (横浜市立川崎病院)
- 本村 和 和 (横浜市立港南病院)
- 伊田 秀 松 (川崎市立港南病院)
- 日置 和男 (川崎市立港南病院)
- 大田 宗雄 (大和市立病院)
- 安部 真 武 (大和市立病院)
- 長谷川 弘 (大和市立病院)
- 村山 弘 (大和市立病院)

☆点検作成班

- 班長 岩崎 上前 (済生会横浜南都病院)
- 班員 本村 忠幸 (北里大学病院)
- 大田 和男 (日本脳神経病センター)
- 安部 真一 (横浜労災総合病院)
- 伊藤 今一 (国際労災総合病院)
- 藤田 直一 (浦川病院)
- 和田 仁志 (清川医院)
- 野山 明彦 (永瀬医院)
- 野山 成之 (山近病院)
- 野山 成之 (伊勢原協同病院)

夏期レクリエーションの報告

去る8月9日(日) 南足柄市矢倉沢の狩川溪谷マス釣り場において西湘放射線技師会夏期レクリエーションとしてマス釣り大会を実施しました。

当日は前夜からの台風もそれ、午前8時に予定通り大人48名、子供多数にて開始し盛況の内にケガも無く、無事に午後1時納会とすることが出来ました。

釣りが初めての方もおられたようで、最初はマスの強い引きに竿を絞りこまれ、振り回されパニック状態の方も見受けられましたが、ほとんどの人が10匹前後、多い人では20匹以上釣れていたようです。

その後自分で釣ったマスをバーベキューと一緒に串焼きにして食べた味は格別であったと思います。

一方釣り場自体も自然の川の流れを利用したもので、清流の流れと水の冷たさ、周囲の風景など今年の夏の思い出のシーンとして心の中に残るものではなかったかと考えております。

最後に、今回ご協力頂いた方々並びに出席された皆様に紙面を通じて深く感謝申し上げます。

尚、(株)カイゲン様より

ウーロン茶 60本、ハイロマン50本

ご寄付を頂きました。〜〜〜ありがとうございました。〜〜〜

(福利厚生担当: 奥村, 大内)



平成4年度 春期勉強会報告

去る6月26日 小田原市保健センターにて午後6時30分より春期勉強会が会員38名の出席で行われました。

今回は胸部撮影をテーマとし、『胸部撮影の撮影技術』について北里大学病院の上前忠幸先生を講師にお迎えし、先生の用意された胸部X線画像評価のテキストと貴重な胸部写真を中心に講義をして頂きました。

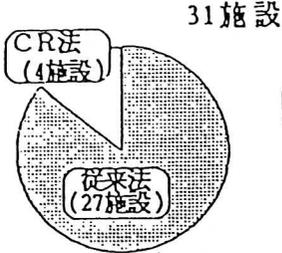
胸部撮影は新人・ベテラン問わず毎日の単純撮影では欠かすことの出来ないものであり、今日のX線診断の分野では胸部撮影は臨床上重要な役割を占めています。しかし、一般的である故に安易に考えられ、技術の改善や勉強がおろそかになりがちです。今回の上前先生の講義は原点に帰り、胸部撮影を勉強し直す機会を与えてくれた充実度の高い講義でした。

次に学術から各施設のご協力により『西湘地区における胸部撮影のアンケート』結果報告をさせて頂きました。

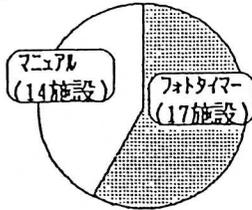
最後に市立病院・林病院・循環器病院の協力により、胸部写真を提出して頂き、フィルムのタイプ別の比較・管電圧の違いによる肺野の描出能の比較・補償フィルターの有無による縦隔の描出の違いなどを話していただき、会員がシャーカーカステンの前に集まり、和気あいあいながらも熱心に質疑応答しながらの有意義な内容となりました。

西湘地区における『胸部撮影の現状』アンケート結果

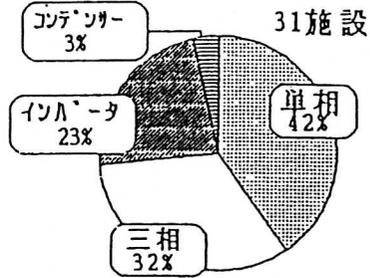
撮影方式



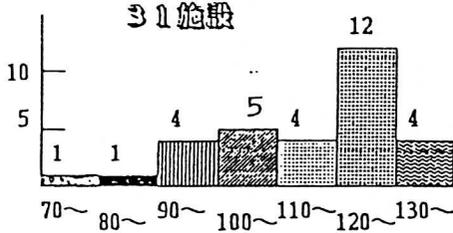
露出方式



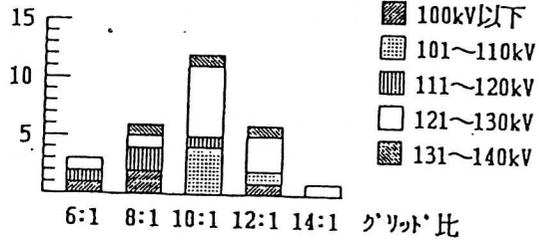
X線高電圧発生装置



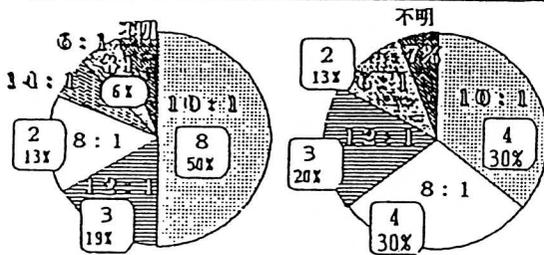
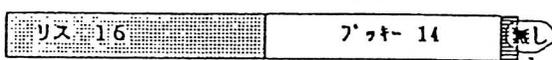
管電圧 (kVp)



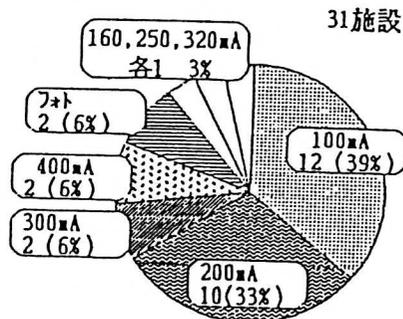
管電圧とグリッド比の組み合わせ



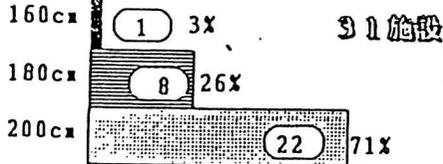
散乱線除去



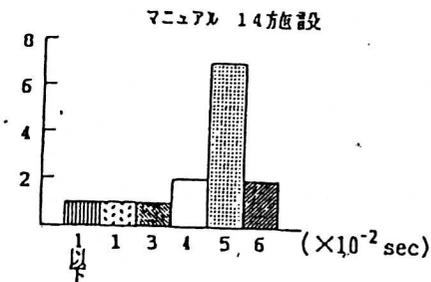
管電流 (mA)



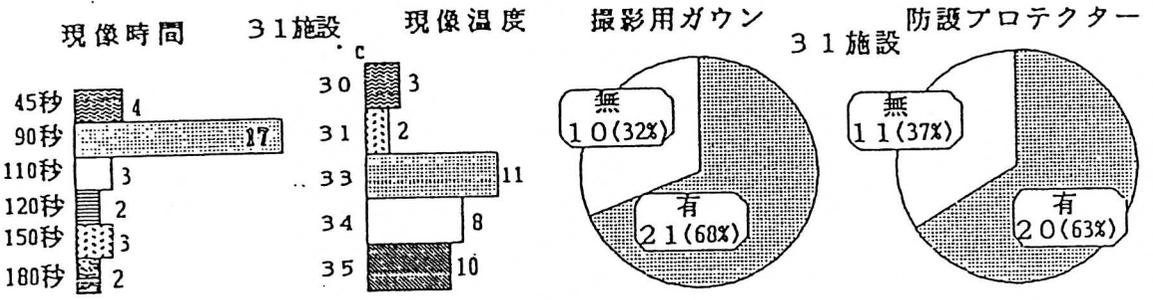
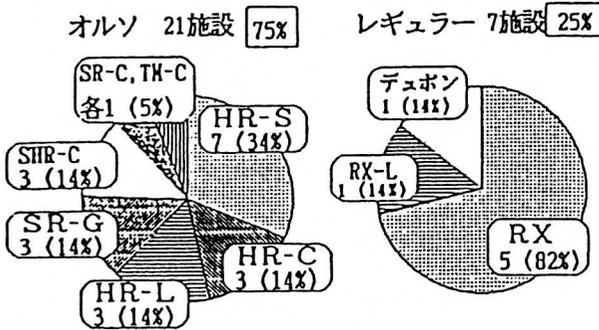
管径 (FFD)



撮影時間

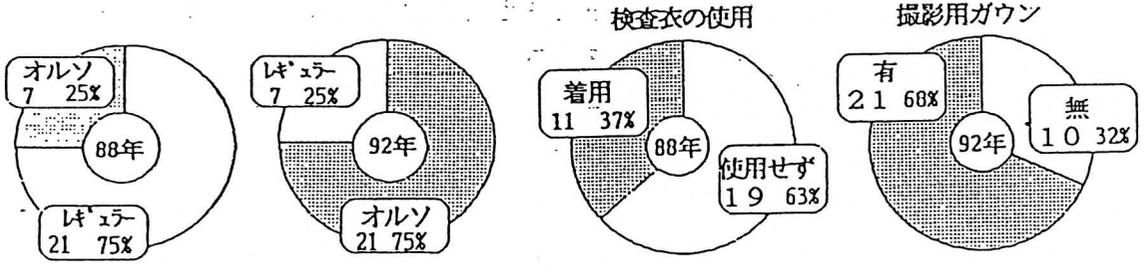


フィルム



4年前と比較

オルソシステムの動向



【まとめ】

平成4年4月に、西湘放射線技師会会員の施設を対象に『胸部撮影の現状について』のアンケート調査を行い、その結果をグラフにまとめて見ました。又、4年前に市立病院の千葉さんが『西湘地区における胸部撮影の現状について』を発表された一部を比較して見ました。

各会員が施設の胸部撮影システムは胸部撮影の基本を概ねクリアーしていますが、その中で強いて問題点を挙げるとすれば、オルソフィルムのタイプ別の最適管電圧の検討、管電圧とグリッド比の適切な組み合わせの検討、防護プロテクターの有無による被爆線量の差はどうか、などが今後の検討課題と、思われます。4年前と今では、オルソシステムの定着化と患者のプライバシー尊重と我々放射線分野の環境が変化していることを示しています。

北からの便り



富士メディカルシステム（株）

北海道営業所 沢田 暢幸

過日、富士フィルム健康管理センターの山田先生より、転勤に際して一言を、とのお便りを頂き、細かい気配りに感謝しつつ、ペンを取らせていただきました。

顧みますと昭和60年6月～平成4年4月迄の6年10ヶ月、神奈川県の方にお世話になりました。楽しい事は瞬時に過ぎると良く申しますが、正にその通りで、数々の思い出が去来しております。これも、私が生まれ、育った神奈川県に対する思い入れが、他地区より強かったのかと、離れてみて実感しております。とくに西湘地区での思い出は枚挙にいとまなく、この紙面で全ては語りきれず、印象深かった点についてお話させて戴きます。

先ず、西湘地区放射線技師会、創立三十周年記念式典に出席させて戴いたことです。先輩諸氏が幾つもの障壁を乗り越え、粘り強いボランティア精神で、発足時は十人にも満たない会を、地域医療に貢献する素晴らしい団体に育て上げた、記念すべき瞬間に立ち会わせて戴いた事です。小田原のウイングでの光景は、今でも眼に焼き付いて離れません。そして、西湘フェスティバル等、先輩諸氏の意思を引継ぎ、着実に会を盛り上げられていることが肌で感じました。只、非常に残念なことは、この西湘地区放射線技師会を、自ら率先されて引っ張ってこられた水沢先生が逝去されたことです。余りにも若く、悲しい別れでした。あの新潟県人会、忘年会等での、楽しく、又おいしいお酒を水沢先生とご一緒出来なくなった事を考えますと、寂しい思いで一杯です。最後のお別れの時の先生のお顔は、おだやかで、生前のあの人情味に厚く、面倒見の良い先生でした。「いつでもおまえたちを見守っている。頑張れ」と逆に先生に元気づけられたような気がします。ここに、重ねて水沢先生のご冥福をお祈り申し上げます。

扱、西湘地区放射線技師会同様、各地区技師会の皆様が、各々の役割に徹し、神奈川県放射線技師会を盛り上げられている事に、非常に感心させられました。それは、会長、副会長、各理事の先生方をはじめ、各地区の役員の方々が方針に沿って、一条乱れずに会を運営されている事です。ご自分の時間を削られ、会の運営に奉仕されている皆様には、頭の下がる思いで一杯でした。企画力、創造力、行動力、統率力、運営力等どれをとっても全国一と思います。全国の技師会の注目の的であった皆様と、ご一緒出来た事に感謝と誇りの気持ちで一杯です。今後、益々西湘地区放射線技師会、各地区技師会、ひいては、神奈川県放射線技師会のご発展を祈念申し上げます。

北海道のお話をちょっとさせて下さい。4/21付けで赴任して以来、早や5ヶ月が過ぎようとしています。その間、3泊4日を5回して、やっと全道の挨拶回りがほぼ終了しました。(稚内地区を残して)挨拶回りのエピソードを2, 3紹介させていただきます。

まず、摩周湖、屈斜路湖の近くに有る、弟子屈町へ出張したのが始まりでした。“でっかい道、北海道”の名の如く、見渡す限り地平線であり、感動の一語でした。しかし感動しているのも束の間で、行けども、行けども目的地に着かないのです。同行した担当者に

「あとどれくらい？」と尋ねると、「このスピードで(80Km/h~100Km/h)2時間位」と当たり前のように答えられたのには、いささかまいりました。北海道は正に、点から点だと実感しました。

次は、根室地区へ行った時のことですが、挨拶回りの途中に、納沙布岬に寄った時のことです。北方領土が目の前にあり、複雑な心境でした。丁度、昼食時でしたので、岬の食堂に入ったところ、店の奥さんに、「どちらから？」と尋ねられ、つつい「横浜から」と答えたら、その店の奥さんの出身が、金沢文庫とのことで、獲れたての花咲蟹をご馳走してくれたのには驚きました。

まだまだ、ご報告したい事はあるのですが、紙面の関係でここでペンを置かせて頂きます。北海道へお越しの節は、是非お声を掛けて下さい。

最後に、重ねて、貴会の益々のご発展と、会員皆様のご活躍を祈念申し上げます。

編集部からワンポイント

沢田所長への原稿依頼は前号に掲載すべく5月連休明け頃お願いをしていたのですが「必ず送るから・・・」「必ず送るから・・・」の電話が忘れた頃に繰り返し。ムリなお願いだったかな？と反省しつつ・・・初夏を迎え夏も過ぎ、すると突然の電話が。「原稿送ったんだけど」電話の向こうの元気な声と、しばしの歓談。本人の口から出ない言葉ですが、めちゃ多忙のご様子。「くれぐれも皆様によろしく」が北からの便り の生の声でした。



新入会員

河野 圭治

小田原市立病院

お断り

今号は原稿量が多いため 施設紹介 の欄は見送りとさせていただきます。
ご了承下さい。

編集後記

9月23日(祝)富士山麓へ待望のキノコ採りに出かけました。

以前、黒沢氏(現神奈川ガンセンター勤務)が早朝に富士山麓へ行ってチョイの間でキノコを採って帰ってくる話を聞かされて以来、やっと念願が叶った次第。

3家族(子供連れ)で車を飛ばし新五合目へ一時間足らずは土地柄に感謝!
駐車場に車が溢れんばかりのキノコブームにはビックリ。小富士を拠点にして、散ったものの樹海の中で“帰らざる人”を意識してヤッホー、ヤッホーの連発。
遊び心でもやはり富士山は広い。「ハツタケ」などを収穫。山小屋のご主人が鑑別した結果、約半分は毒キノコ。疲れた~~~~~。

雨が少ないせいか今年是不作とか。でも「松茸」はこれからだと言われ・・・
近い内にもう一回、イクゾ~~~~~。(やまだ)

